

ネイチャー高知

No23 2004 年 7 月 31 日発行

川の中に樹木が茂る

澤良木 庄一(連絡会会長)

川の中といっても正確には、「河道内」ということなので、水の中ではない。四万十川橋(赤鉄橋)の上流側右岸の10.2Km~12.8Kmの間の河川敷や河原に、最近樹林(ヨシノヤナギ・アカメヤナギ群落)や、高茎草本群落(オギ、ツルヨシ、セイタカアワダチソウなどの群落など)、タケ・ササ群落(メダケ群落、マダケ群落など)の繁茂が著しくなった。ここは入田ヤナギ林と呼んでいるが、ここ以外にも、また支川の中筋川や後川でも同様の現象が起きている。

河道内樹木の繁茂は、洪水時に川の下げれを一時的に停滞させること(流下機能の阻害)によって堤防等構築物の安全を脅かす原因になるということで、河川管理上の問題になっている。

そもそも河道内に樹木が繁茂するということは、どういうことか。言うまでもなく、川の水が少なくなってその部分が川でなくなってきていることが、一番の要因といえる。このような水量水位の減少が長く続くと、本来の川筋はだんだんと細くなり、流路であるべきところが露出して河原となり、そこに先駆的植物の侵入が始まり、ヤナギ類も発生して植生が拡大していく。また、洪水の度に運ばれる土砂の堆積によって立地は少しずつ水面から高くなっていく。ヤナギ類は土砂に埋まるたびに不定根を出して成長を続け、樹林の成立へと進んでいく。入田ヤナギ林では、堤防工事以来70年を経て、今日の植生を生み出している。

このような場合、河川の景観維持と共に、洪水時における一定の流下機能の維持が必要であるということで、河道内樹木の異常繁茂についての対応策が検討された。ここで、四万十川を管理する国土交通省としては、洪水対策としての伐採を要望する地元の意見や河川環境保全のための慎重論などを含めた協議機関を設けて、必要な調査や検討をし、保全に十分配慮した上で、一定区間の植生について、伐採除根作業を実施することとなり、平成15年の冬場に事業を開始した。

この事業は一見、水辺の自然植生を一挙に「破壊」するかに見える。確かにそのとおりの場面が展開する。そのため事業の実施にあたっては、的確に計画に従い、趣旨を良く理解し、不用意な伐採や拡大を防ぐため、現場の指導監督をすることなど、特別な配慮のもとで事業が遂行された。

大切なことは、ヤナギ、エノキなどの高木は伐採しないこと。伐採し、除根する主な植生はタケ、ササ類の群落と、ヤナギ林内に密生するタケ、ササ類及び河原に群生するオギ、ツルヨシ群落を対象にして実施された。その結果、ヤナギ林内とその周辺を閉鎖していたタケ、ササ類との伐採と除根によって、林内は広く展開し、ヤナギ、エノキなど10数メートルから20メートルの樹木が点在する明るい川辺林となった。タケ、ササ類を除根した場所は、当分これらの再生を押さえ込むことができたと思う。

入田ヤナギ林には、希少種の分布も知られている。今回の事業現場では、タコノアシ、ミズユキノシタ、ミゾコウジュ、マツカサススキなどがあるが、生育場所が少しずれていることから、幸い影響は少なかった。

今回、河道内樹木の管理事業を追跡するなかで、岸辺に立つヤナギ類の景観は、私たち人間の水に親しむ空間として残しておきたい大切なポイントであることを強く感じた。と同時に、多様な生物群の生息環境としても重要な意味を持っていることに十分留意し、今後の河川管理計画に行かす必要があることを痛感した。

新しいヤナギ林の管理育成については、目下、植生の復元を観察中であり、新たな環境に再生拡大が予想される種の分布についても期待できる。興味ある方は是非この機会に復元の状況を観察して欲しいと思う。

(〒787-0020 中村市入田3205)

高知市宗安寺のシマイボクサ

坂本 彰

この「イボクサらしい植物」は高知市朝倉の北部、宗安寺で2002年9月8日、稲刈りの終わった田んぼの調査の際採集した。採集した場所は田んぼの畦。採集したときの印象は「イボクサ？何となくイボクサと違うな・・」という感じで、とにかく標本に押した。標本にしてよく観察してみると、花の時期は過ぎて、すでに果実の状態になっていたが、全体の印象もさることながら、果実が長い花柄の先にたくさん着いている状態からイボクサ (*Murdannia keisaku*) でなくてシマイボクサ (*Murdannia loriformis*) であることが判明した。

原色日本植物図鑑(保育社)では、シマイボクサの生育地は九州(屋久島・種ヶ島)・琉球・台湾・中国・フィリッピン・マレーシアとなっており、四国における生育は確認されていない。もちろん、山中先生の「高知県の植生と植物相」にも記載されていない。牧野植物園から頂いた資料では、九州では沖縄県、鹿児島県の他宮崎県でも確認されているとのことであるが、いずれにしても、高知県では最初の発見である。

では、シマイボクサはなぜこれまで高知で発見されなかったのか？となると、もともと高知に生息していたのを誰も気がつかなかったという可能性は低いし、隔離分布するような種でもないものが、ある地点のみに生育するということは、どこからか移入された可能性が高いという判断をして、どこから来たのかを探ってみることとした。

翌2003年8月に再度生育地を調査した。まず、分布している範囲を調査したが、その結果生育が確認できたのは、2002年に採集した田んぼと、そこから巾3m程の水路を挟んだ西側の田んぼ3枚で、いずれも水路に面した側の畦であった。そのうちいくつかを標本として採集すると共に写真に写した。(写真1)

水路の西側では田んぼ3枚に連続して生育していたが、2002年に採集した水路の東側では、採集した田んぼの畦の上、下流では数多く生育していたが、隣接した田んぼからは、確認できなかった。また、シマイボクサの生育している場所は、イボクサのように水路とか水のある田んぼでなくて、いずれも半乾燥の畦であった。



生育している範囲の調査に併せて、近くに住む田んぼの持ち主に聞き取り調査を

行ったが、沖縄や鹿児島との結びつきを示すようなものは何もなく、国内移入の線は考えられなくなった。

更に周囲を調査すると、2002年に採集した田んぼの上流側の畑で面白いものを見つけた。それは、土壌改良用として使用されている、草本類を長さ10cm程に切ったもので(写真2)、袋のラベルにからインドネシアで生産されたものを輸入したものと判断された。(写真3)



この畑の周囲を調べると、2002年に採集した田んぼは、この畑の一段下で、畑からは巾20cm程の小さい水路が流れ込んでいること、また、3m程の水路を挟んだ対岸の田んぼにはこの畑から直径30cm程のパイプがかけられていることも分かった。



この畑の持ち主には聞き取り調査を行っていないので、ここからは全くの推測であるが、

- ① 宗安寺のシマイボクサはもともと生息していたものではない。
- ② この畑の農家では、中国、東南アジアで生産された農業用資材を使っていた。
- ③ 農業用資材の中にシマイボクサの種子が混入していた。
- ④ 畑に撒かれた農業用資材に混ざっていたシマイボクサの種子が、大雨のときに水路を伝わって下流側へ、またパイプを伝わって対岸へ運ばれ、生育のための条件が合致した水田の畦で発芽し、そこで定着した。

いたシマイボクサの種子が、大雨のときに水路を伝わって下流側へ、またパイプを伝わって対岸へ運ばれ、生育のための条件が合致した水田の畦で発芽し、そこで定着した。

④ もともと外国産の農業用資材が撒かれた畑は、シマイボクサにとっては乾燥しすぎており、生育の条件が合わず、発芽をしていない。

という結論を見出した。

以上の結論は、推測の域を出ないものであり、この畑で外国産の農業用資材が使われたのが2002年以降であると成り立たない推論である。(生息の範囲からすると2～3年以上前に定着したものと思われる。)

以上のようにまだまだ謎を残した宗安寺のシマイボクサであるが、今後とも観察と聞き取り調査を継続し、この植物が育ってきた経過を探っていきたい。

(高知市朝倉南町3-51-1 世話人代表)

観察会のお知らせ

皿ヶ峰 早秋の植物観察会

日時 2004年8月29日（日曜日） 午前9時から11時

場所 高知市高見町 皿ヶ峰周辺

講師 稲垣典年さん

集合場所 午前9時に皿ヶ峰登山口にお集まり下さい。

持参するもの 筆記用具（講師の話をメモできるもの）

早秋の草原に咲く草花を観察します。

暑い高知でも8月末になるといつの間にか秋が忍び寄ってきています。

早秋の皿ヶ峰周辺は、そんな秋の気配をいち早く感じることができる場所です。

ホソバヒメトラノオなど、稀少な種も観察できます。

小雨決行です。

お天気が怪しいときは、雨具もお忘れなく。

秋の七草と棚田の植物観察会

高知市久礼野で10月上旬を予定しています

蛇紋岩地の植物観察会

高知市蓮台で11月上旬に開催する予定です。

いずれも細川公子さんを講師にお迎えして開催する予定です。

日程等が決まりましたら、高知新聞伝言板の欄でお知らせします。

会費納入のお願い

会費の納入がまだな方は納入下さるようお願いいたします。

納入方法としては、郵便振替が手数料も安く便利ですので、郵便振替をご利用下さい。

郵便局備え付けの振替用紙で

口座番号 01630-9-41422

加入者名 高知県自然観察指導員連絡会

までお願いいたします。

会報「ネイチャー高知」原稿募集

連絡会では年2回会報「ネイチャー高知」を発行しています。

観察会の報告やフィールドの紹介、調査結果の発表、自然保護のための主張や随筆などをお寄せください。

概ね1ページ1,600字で編集していますので、これを目安に何ページでも結構です。

次回の発行は、2005年の1月頃になります。

多くの投稿をお待ちしています。

「ネイチャー高知」高知県自然観察指導員連絡会会報
No23

事務局 780-8075
高知市朝倉南町3-51-1 坂本彰方

TEL&FAX 088-850-0102
E-MAIL akira@baobab.or.jp